

拳児希望のある子宮内膜症症例の自尊感情についての検討

¹ 岡山大学大学院保健学研究科

² 岡山大学医学部産科婦人科

¹ 江見弥生, ^{2, 3} 中塚幹也, ¹ 奥田博之

Key words: 気分, 月経, 子宮内膜症, 自尊感情, 不妊

母性衛生 2006 年掲載

抄録

子宮内膜症の月経痛や過多月経は女性の Quality of Life を低下させる。また、子宮内膜症による不妊症の不安が精神的ストレスとなる可能性もある。そこで、子宮内膜症症例の身体症状や気分の障害と自尊感情との関連を検討した。

拳児希望のある確定診断された子宮内膜症 29 症例、健常な未婚婦人 30 名、既婚婦人 30 名に対して、同意のもと、無記名の自己記入式質問紙調査を行った。

子宮内膜症群では、対照群に比較して月経に伴う血塊、腹部膨満、排便痛、背部痛、また、月経以外の時期の性交痛、下腹部痛、腹部膨満、排便痛、不正出血などが有意に高頻度であった。また、月経時には、「やる気が出ない」、「人に攻撃的になる」など、月経以外の時期には、「憂鬱になる」、「孤独を感じる」などの気分の障害が有意に高頻度であった。気分の障害の項目数が多いほど Rosenberg の自尊感情尺度(邦訳版)は低く、負の相関が見られた。また、既婚症例に限ると、不妊症の不安のある症例は自尊感情尺度が低い傾向が見られた。

子宮内膜症の診療では、身体症状が注目されることが多いが、気分の障害や不妊症の不安などを考慮した支援が重要であると考えられる。